

公開実用 昭和 59—

183860

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—183860

⑭ Int. Cl.³
B 65 D 39/04

識別記号

庁内整理番号
8208—3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)12月7日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑯ 容器と組合せたキャップ

地の1

⑰ 出 願 人 株式会社美濃久商店
一宮市萩原町戸荻字本郷前24番

⑰ 実 願 昭58—79290

⑱ 出 願 昭58(1983)5月26日

地の1

⑲ 考 案 者 加藤一哉

⑳ 代 理 人 弁理士 入山宏正

一宮市萩原町戸荻字本郷前24番

明 細 書

1. 考案の名称

容器と組合せたキャップ

2. 実用新案登録請求の範囲

1 開口部とこの開口部より広幅の胴部とが肩部で連結された容器の前記開口部を密封するキャップが、前記開口部内周形状とほぼ同じ外周形状で且つやや狭幅の足部を有し、この足部の外周には2個以上の可撓性の舌片が周設されており、これらの舌片はいずれも足部の先端側とは逆方向に湾曲しており、該キャップの足部を前記開口部に押し込んで容器を密封したときに、足部の先端側の1個の舌片が前記肩部に当接し且つ他の1個以上の舌片が前記開口部の内周面に密着するように形成して成る容器と組合わせたキャップ。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、密封性が良好で且つ繰り返しの脱着使用に便利な、そして特に広口の容器に好適の、容器と組合わせたキャップに関する。

従来、調味料類の容器詰製品には、該調味料類を使用しない場合、一方では流通過程や使用中における密封性を維持しつつ、他方では実際の繰り返しの脱着使用に便宜を供することを考慮して、王冠とその替栓を組合わせたキャップ、容器の開口部と強く密着嵌合するコルク栓の如きキャップ、容器の開口部と螺合するキャップ等が使用されている。

ところが、これらのキャップは、繰り返しの脱着使用が所謂ワンタッチではなく、実際のところ依然として不便である。密封性を堅持しようとするれば、容器の開口部とキャップとがあたかも固着したかのように強固になってしまい、逆に繰り返しの脱着使用に便宜を供しようとするれば密封性が悪くなってしまう。中には、使用上の便宜を考えるあまり、容器が転倒したただけでも中身の調味料類がこぼれ出るものさえある。具体的には例えば、王冠やコルク栓を開栓するには何らかの道具が必要である場合が多い。また例えば、容器の開口部と螺合するキャップの場合、少なくともワンタッ

チ（キャップを容器の開口部へ押し込むだけでよいという程度の意味）とはいい難い。特に、調味料類が練り状のマスタードの如く粘稠物であって、例えば容器の開口部からスプーン等で取るようなものである場合、比較的広口の容器が使用されるが、このような容器の場合には、もともと王冠やコルク栓は不向であって、開口部と螺合するキャップは密封性を維持するために手の力だけでは開栓し難い程度に強固になってしまう。

本考案は、叙上の如き実情に鑑みて改良されたもので、容器と組合わせたキャップを提供するものである。

以下、図面に基づいて本考案の構成を詳細に説明する。

第1図は本考案の一実施例を示す正面図、第2図はそのキャップだけの部分拡大縦断面図、第3図はその使用状態を示す部分拡大縦断面図である。容器11は広口の開口部12とこの開口部12より広幅の胴部13とが肩部14で連結されているものである。キャップ21は、開口部12に押し

込んで容器 1 1 を密封するものであり、開口部 1 2 の内周形状とほぼ同じ外周形状で且つやや狭幅の足部 2 2 を有している。この足部 2 2 の外周には 2 個の可撓性の舌片 2 3、2 4 が周設されていて、これらの舌片 2 3、2 4 はいずれも足部 2 2 の先端側 2 2 a とは逆方向に湾曲している。そして、キャップ 2 1 の足部 2 2 を開口部 1 2 に押し込んで容器 1 1 を密封したときに、足部 2 2 の先端側 2 2 a の舌片 2 4 が肩部 1 4 に当接し且つ他の舌片 2 3 が開口部 1 2 の内周面に押し潰されるが如く密着するように構成されている。

容器 1 1 は、陶磁器製、ガラス製、金属性、プラスチック製、木製又はこれらの適当な積層品製等、いずれでもよい。キャップ 2 1 も同様であるが、舌片 2 3、2 4 はプラスチック製又はゴム製等の可撓性材料で形成されており、これらはキャップ 2 1 全体として一体成形されているものが好ましい。図面では、舌片が 2 個周設されている例を示したが、これらは 2 個以上であれば特に制限はない。

第 3 図に示すように、キャップ 2 1 を容器の開口部へ押し込むと、図中最下方の舌片 2 4 が容器の肩部 1 4 へ当接するため、単に容器が転倒した程度では、キャップ 2 1 は容器から外れない。また、他の舌片 2 3 が容器の開口部内周面へ密着するため、良好な密封性が維持される。舌片を 3 個以上同様に周設すれば、2 個以上の舌片が容器の開口部内周面へそれぞれ密着するため、それだけより一層良好な密封性が堅持される。舌片 2 3、2 4 は、可撓性の例えば軟質ポリエチレンで成形されているため、復元性、柔軟性、密着性に富み、かかる舌片の周設されているキャップ 2 1 は、容器 1 1 に対し単に押し込み又は押し上げや引っ張り等するだけでよいため、繰り返しの脱着使用も極めて便利である。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の一実施例を示す正面図、第 2 図はそのキャップだけの部分拡大縦断面図、第 3 図はその使用状態を示す部分拡大縦断面図である。

11 … 容器、12 … 開口部、13 … 胴部、



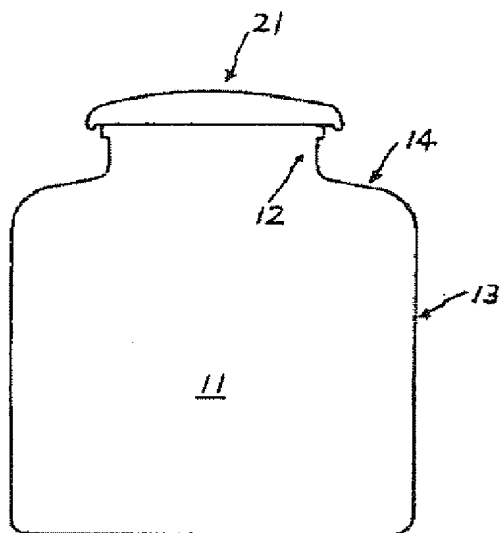
14 … 肩部、 21 … キャップ、 22 … 足部、
23、24 … 舌片、

実用新案登録出願人 株式会社美濃久商店

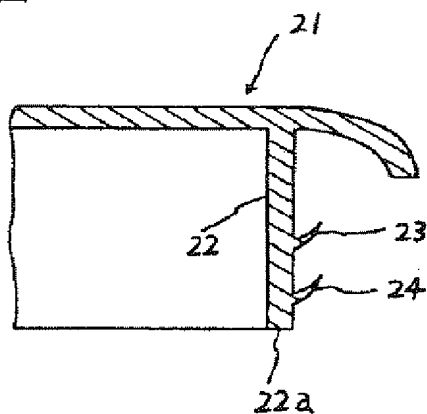
代理人 弁理士 入 山 宏 正

図面その 1

第 1 図

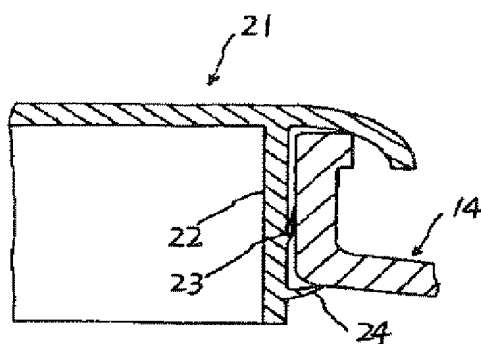


第 2 図



図面その2
後図面なし

第 3 図



実用新案登録出願人 株式会社美濃久商店

代理人 弁理士 入山宏正